

平成23・24年度 長崎県教育委員会 五島市教育委員会研究指定

ICT教育研究紀要

研究主題

『**確かな学力を身に付け、
学び合う子どもたちの育成**』

副主題

「**ICT利活用をととした言語活動の充実**」

平成24年10月30日

五島市立三井楽小学校

1 研究構想図

本校教育目標

心身共に健やかで豊かな心を持ち、
自ら学ぶ力を身に付けた子ども

研究主題

『確かな学力を身に付け、学び合う子どもの育成』

副主題

「ICT利活用をととした言語活動の充実」

視点1

授業のねらいを焦点化する

視点2

言語活動を仕組む

視点3

ICT機器を利活用する

言語活動の充実

・知的活動(論理や思考)
・コミュニケーションや感性・
情緒

言語活動の充
実を意図した
授業づくり

ICT利活用

・活用場面を意識
・何をさせるためにどう使うか

創造・共有・効率

関心・意欲・態度

書く・かく

話す・聞く

話し合う

考え方
思考・判断・表現

授業中に教師が

授業中に児童が

授業前後に
教師が

知識・技能

研究仮説

授業のねらいを焦点化し、ICT機器を利活用しながら、言語活動を意図的に仕組むことにより、学習活動が充実し、意欲が高まり、学力が定着するであろう。

2 研究の内容

確かな学力を身に付け、学び合う子どもを育てための3つの視点

視点1

授業のねらいを焦点化する

- 1 単元の評価規準を明確に設定する。
- 2 1をもとに学習過程を工夫し、単元計画に各時間の評価規準を位置付ける。
- 3 何を教え、何を考えさせるのかを明確にする。



期待される教育的効果

- ゴールの姿を明確にもった授業づくり（授業展開）が可能になる。
- 単元で身に付けさせたい力を確実に習得させることができる。
 - ・習得＝知識・技能の習得
 - ・活用＝知識・技能を活用して、思考力・判断力・表現力等の能力を育成

5 評価規準

関心, 意欲, 態度・・・〇〇〇〇
思考, 判断, 表現・・・〇〇〇〇
技能・・・〇〇〇〇
知識, 理解・・・〇〇〇〇

単元の評価規準を作成する。(国立教育政策研究所の資料を参考に)

6 単元指導計画・評価計画（全〇時間）

時	主な学習活動	評価規準	言語活動
(1) 小単元「 」(〇時間)			
1	・ 評価規準をもとに単元計画の評価観点を配置する。(1時間に1～2観点を目安に)	関・・・	思考, 判断, 表現の評価観点に合わせて, 適切な言語活動を設定する。
2		技・・・	
3 本 時		考・・・	自分の考えを図に表し説明する。
(2)			
4	・ 思考, 判断, 表現の配置について ○理科・社会科においては, 課題設定・予想・計画の段階と調査や実験, 観察の結果考察の段階の2つの時間に配置する。		

思考, 判断, 表現の配置について

○理科・社会科においては, 課題設定・予想・計画の段階と調査や実験, 観察の結果考察の段階の2つの時間に配置する。

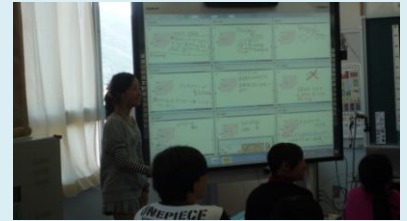
視点2

言語活動を仕組む



〈場の設定〉

- ◆書く、かく活動
- ◆ペア活動
- ◆話し合い活動（全体で）



〈学習規律〉

- ◆学習姿勢系統表を作成し、各学年で指導することを共通理解する。
- ◆「声のものさし」「ハンドサイン」「話の聞き方」を作成し、指導する。
- ◆話型（発表の仕方）、「学習の進め方」を作成し、指導する。

〈言語活動の意図〉

- ◆思考力、じっくり考える力
- ◆判断力、見通しを立てる力
- ◆表現力
- ◆基本的な知識、技能の習得
- ◆知識技能を活用する力
- ◆コミュニケーション力
- ◆話を聴く力 など

互いの考え方の共有・吟味を行いつつ意見交換や発表を通して、互いの学びを高め合う。

期待される教育的効果

- 協働学習を通して、主体的に学ぶ力を育成することができる。
- 何のために、どの場面で、どのような言語活動を仕組むかを構想することで、ねらいに迫る活動が実現できる。

『協働学習』

- ◎互いに話し合うなどの協働学習を通じて、子どもたちの興味、関心を高め、自らより深く調べようとする意欲を引き出す。
- ◎互いの意見を比較し、分類や整理をする。

言語活動の充実を意図した授業づくり

6 本時の学習

(1) 本時の目標

○

学習のねらいを明確にし、身に付けさせたい力を絞る。(視点1参照)

(2) 本時の評価規準

○おおむね満足できると判断

どのような場で、どのような言語活動を設定するのか。

(3) 本時の視点

○言語活動の意図

○ICT機器の利活用について

どのような場でICT機器を利活用するのか。

(4) 展開

過程	No.学習活動 ○学習内容◆言語活動	◇指導事項 ◆ICT・留意点 ☆評価
つかむ	1 問題を読む。	◆問題の提示
	2 めあてをつかむ。 めあて	◇児童の気づき
	3 見通しをもつ。	◆見通しの記入 ・見通しを全 わせる。
調べる	4 自力解決をする。	◇見通しをも ・机間指導を
	5 ペア活動をする。(相手の説明が分かったらサイン) ◆	・子ども同士の説明し合いや教え合いをさせる。 ☆
深める	6 お互いの考えを出し合う。 ◆	◆児童の考えを拡大提示 ◇お互いの考えのよさを確認しながら一般化を図る。 し合いや教え合いをさせる。
	7 まとめをする。 まとめ	
見つめる	8 適用問題に取り組む。	◇学習内容の理解を確認 ☆
	9 分かったことや分からなかったことを自己評価させる。 分かったことや分からなかったことを記述する。 10 今日の学習の感想を書く。	◇理解状況を捉え、次 ◆

ICTの利活用場面
(使用する機器, 対象, 方法など)

自分の考えをどのような言葉を用いて発話させるのか。
自分の考えをどのような言葉を用いて記入させるのか。

例: ICT機器の利活用と話し合い活動(全体で)の関連

自己評価の視点
「わ・が・と・も・よ」
わ…わかったこと
が…がんばったこと
と…友達から学んだこと
も…もっと知りたいこと
よ…よくわからなかったこと

ICT機器等で提示する内容との関連に配慮し、効果的な板書を計画する。

(5) 板書計画

視点3

ICT機器を利活用する

○身に付けさせたい力を意識した利活用

「知識」…ドリルシステム、フラッシュ型教材、クイズ形式、百科事典など

「思考・判断・表現」…まとめの作成（プレゼンなど）、情報収集、ノートなど

「技能」…動画（書写の手本、算数の作図など）、ドリルシステムなど

○ICT機器の使用対象

「授業中に教師が使用」…デジタル教科書や各資料の提示、児童の考えの把握

「授業中に児童が使用」…考えの紹介、情報収集、理解の定着

「授業前後に教師が使用」…教材準備、学習評価



期待される教育的効果(利活用のキーワード)

「創造」…自分の考えを再構築するための方法が増える。

「共有」…同じ画面にみんなで書き込んだり、個人の画面を表示させたりすることで考えを共有しやすくする。

「効率」…指示が明確になり、作業の効率が上がるため、個別学習や話し合い活動の時間を生み出すことができる。

〈ICT機器の利活用と言語活動の関連〉

- タブレットPC、デジタルペンシステム（デジペン）の長所を生かす。

タブレットPCへの書き込みを通して、言葉や数、式、図、表、グラフなどの関連を理解するとともに根拠を明らかにした自分の考えを構築することができる。

それぞれの考えをリアルタイムで電子黒板に提示することで、意見の共通点、相違点を認識することができる。認識した内容をもとに話し合い活動を展開することができる。

- 電子黒板の長所を生かす。

デジタル教科書や実物、ノートの拡大図、シミュレーションソフトなどを提示できるため、子どもたちの視線を確認しながら学習を進めることができる。子どもたちにとっては、視点が電子黒板に固定されるため、説明内容の理解を深めることができる。

また、指示や説明にこれまでよりも時間をかけずに理解させることができるため、様々な活動の時間を充実することができる。

- 黒板、ノートの役割を明確にする。

1単位時間にICT機器ばかりを使って学習を展開するわけではない。1単位時間の学習の流れが板書を見て分かるようにし、そして、学習内容の定着を図るためにノートには、「めあて」「まとめ」は必ず書かせるようにする。

ICT 機器の利活用事例

タブレットパソコン

(全教科) 個別学習の充実



社会科

- ・インターネットによる調べ学習
- ・まとめの記入 (白板ソフト)
- ・動画視聴
- ・ドリル教材

総合的な学習

- ・インターネットによる調べ学習
- ・ネットマナーの指導
- ・キーボード練習

算数科

- ・シミュレーション教材による個別学習
- ・ワークシート (白板ソフト)
- ・ドリル教材

国語科

- ・新出漢字の学習
- ・物語文の読み取り (気に入った場面の抜き書き)
- ・ドリル教材

道徳

- ・画像検索, 人物検索
- ・ワークシート (白板ソフト)

理科

- ・実験器具の使い方
- ・実験, 観察の記録
- ・ドリル教材

電子黒板

(全教科) デジタル教科書の活用・共有画面の提示



国語科

- ・新出漢字の学習
- ・話合いや音読の音声
- ・挿絵の提示
- ・本文の提示 (線引き)
- ・手本の提示 (書写)

社会科

- ・資料の拡大提示
- ・発表資料の提示
- ・動画視聴

算数科

- ・問題場面の提示
- ・シミュレーション教材の提示 (図形領域での活用)
- ・拡大画面での答えの確認

体育科

- ・動画の提示
- ・ワークシートの提示

理科

- ・画像, 動画の提示
- ・観察, 実験の仕方の提示
- ・記録の提示

音楽科, 図画工作科

- ・DVD鑑賞, 作品鑑賞
- ・作品例提示 (導入)

道徳, 学級活動, 昼休み

- ・題材として取り上げられている事象の提示
- ・学級目標の設定
- ・デジタル教材の提示 (番組)

実物投影機

(全教科) ノート, 具体物, 操作方法の提示



算数科

- ・ 具体的操作活動の説明
- ・ ワークシートの提示
- ・ 道具 (分度器など) の使い方

理科

- ・ 観察, 実験の結果の提示
- ・ ワークシートの提示
- ・ 実験方法の提示

国語科

- ・ 作品の提示 (書写)
- ・ ワークシートの提示
- ・ 話合いの様子を撮影し, 提示

社会科

- ・ 地図やグラフ, ワークシートの提示
- ・ 具体物の提示

家庭科

- ・ ワークシートの提示
- ・ 作業の提示

音楽科

- ・ 旋律 (自作) の提示
- ・ 合唱の様子を撮影し, 提示

3 成果と課題

今回の研究を進めるにあたって一番大切にしてきたもの、それは「教育の不易と流行」という言葉である。時代の流れとしてICT機器の利活用は「流行」である。しかも、その流行の勢いは強く、そして早い。知識基盤社会と言われる世の中では、ICT機器利活用の能力は必要不可欠のものになってきている。

「不易」とは、授業改善への熱意である。いかにして子どもたちに楽しくわかる授業を展開し、学力を定着させていくのかを考えることはいつの時代も変わらない。

本校の研究はその二つを柱とし、深めてきた。1年次は「慣れること」をキーワードに研究を進め、ICT機器の良さを「創造・共有・効率」とまとめることができた。2年次はICT機器の良さとし身に付けさせたい力を関連させることに力を注いだ。特に「言語活動の充実」についての共通理解を深め、その意図や位置付け、場の設定を工夫することができた。子どもたちの思考の流れを確認し、学級全体で共有しやすくなったことはICT機器ならではの効果であり、強みとして挙げられる。

しかし、意見交流のさらなる活性化や自力解決の力など課題はある。子どもたちの自己肯定感を高め、自信をもって学習を展開できるように、さらに手立てを講じていきたい。